

●モノグラフ小学生ナウ



お母さんの教育観



vol.4-12

©1985(株)福武書店 教育研究所/加藤智博・和田京子・田中美幸
放送大学教授 深谷昌志

目次

特集／母親は変わったのか	2
調査レポート／お母さんの教育観	
要約	6
1. 母親たちのライフスタイル	8
● 純粹の戦後派世代	8
● しあわせな家庭生活	9
● どんな生き方をしたいか	12
2. 子どもとの関連の中で	15
● 親たちの抱く子ども像	15
● 子どもの将来について	18
3. 子どもの勉強をめぐる	20
● 成績の現実と理想	20
● 成績を良くするには	22
● 勉強を教えられるか	24
● 教職への評価	25
● 塾通いについて	26
● 学校への期待	27
まとめに代えて	29
● 「わが子」中心の見方	29
● 子育てとはあきらめから	29
シリーズ／講座・子ども調査入門⑫	
報告書の作成	30
資料 調査票見本および集計表	36

特集

母親は変わったのか

—アメリカの女性問題事情—

放送大学教授 深谷昌志



母親は変貌した

このところ、母親の様がわりが目につく。かつての母親には、涙やふしあわせがつきものであったように思うが、現在では、笑顔とあわせが、母親を象徴しているように思える。そして、母親という立場を離れて、女性として自立している、あるいは母親であるこ

とはその人の一部分、といった感じの母親が増加している。

本レポートでは、そうした母親の心の内を、子どもとの関係を中心に考察していこうとしている。しかし、その前に、日本以上に大きな変貌をとげたアメリカの女性問題事情を、かけ足のかたちで概観することにしたい。国はちがっても、示唆に富むものがあると思われるからである。

「新しい女性の創造」

昭和53年の暮れ、アメリカの西海岸に滞在していた。時間があつたので、サンフランシスコの書店に入って驚いた。店の正面の、ベストセラーコーナーとでもいうべきところに、女性問題の本が山積みされていた。しかも、大学町とはいえないダウンタウンの書店である。その後、ロサンゼルスやシアトルなど、めばしい町に着いたとき、書店をひやかしたが、女性問題のコーナーに大きなスペースがさかれている状況には変わりがなかった。

ベティ・フリーダム (B. Friedam) の「新しい女性の創造」 (The Feminine Mystique) が出版され、アメリカのベストセラーとなったのは1963年であった。現在では古典ともいわれているこの著作の中で、周知のように、フリーダムは、2人の子どもを育てた典型的なアメリカの主婦の立場から、主婦のあり方に疑問を投げかけている。

アメリカ社会では、伝統的に、中流階層の主婦が女性らしさの象徴と考えられてきていた。しかし、冷静になって考えてみると、家庭の中に埋没していると、主婦は人間的な感受性を失い、思考するのを停止してしまう。したがって、女性らしさを賛美するわなにはまって空虚な家庭にのめりこむことなく、人間性を回復しようというのが、フリーダムの主張だった。

これまで、多くの女性論は、職業をもつことが女性の自立の前提となるというようなベールなどの主張と、母性こそが女性の特性だとみて、母性を重視するエレン・ケイなどの指摘とに二分されるかたちで積み重ねられてきた。それに対し、フリーダムは、すでにふれたとおり、主婦としての生活を出発点として、やわらかいトーンで問題を提起したので、それまで女性論に無関心だった主婦層に与えた影響は、きわめて大きかったといわれ

る。

ERAの動き

その後、1966年、彼女は、全米女性組織 NOW (National Organization for Woman) を組織し、中絶の権利や託児所の設置、職場での機会均等など、男性優位の見方を打破する運動を展開していった。

そうした過程で、1972年に連邦議会を通過した「法の前での権利の平等は、性別を理由として、合衆国あるいは各州によって、否定または制限されてはならない」の州議会批准を求める動きとなった。俗にERA (Equal Right Amendment) とよばれるアメリカ憲法の改正を求めるもので、そのためには、連邦議会上下院が3分の2以上で議決すると同時に、4分の3 (51州中の38州) の州の批准が必要であった。そして、1972年に22州で批准が行われ、ERAが通過する見通しは明るいうちにみえたが、そのころから反対運動も強まり、73年8州、74年3州のように、批准のテンポが遅れはじめた。加えて、連邦議会の議決が7年以内に批准されないと無効になることから、1979年3月のデッドラインをめぐる、賛成派と反対派とが激しいデッドヒートをくり返した。

昭和53年の暮れに、筆者の体験した書店での印象は、ちょうどそうした背景から生じたものであった。結局、連邦議会は、法案無効の期間を39ヵ月延長したため、とりあえず、問題の決着はずれこむことになり、そして、ERAは批准されることなしに現在に至っている。

しかし、批准の有無を越えて、こうした過程を通して、アメリカの女性問題は、まったく新しい局面を迎えるようになった。

1972年に200部から出発したといわれる「ミズ」 (Ms) が45万部に売り上げを伸ばしたほか、性に伴う差別禁止が雇用などの面で顕著

になりつつある。

実際に、アメリカ人と話していても、チェアマン chairman はチェアパーソン chair person へ、スチュワーデスは乗務員 flight attendant へ、ポリスマンはポリスオフィサー、フォマン foreman はスーパーバイザー supervisor へと言い方を改めている場合が多い。

性差の撤廃を求めて

そして、性差の撤廃を急進的なかたちで提唱したのが、K. ミレットの「性の政治学」(Sexual Politics)や、W. ライヒの「セクシュアル・レボリューション」(Sexual Revolution)で、中でも、ミレットは、生殖体系や第二性徴などを除くと、両性は生得的に等しく、男女がそれぞれ固有なものとして交換しうるのは精液と粘液だけだろうという。したがって、ワギナへの挿入によって、オルガスムスを感じるというのは、フロイト以来の偏見であり、女性は、クリトリスへの刺激により、性的な快感を味わう。そうした意味で、ペニスは女性にとって男性が思うほど重要でなく、同性愛を通してでも性的な充足感を得られる。それにもかかわらず、男性は性的な関係を通して女性を支配しようとしている。したがって、一夫一婦制のワクを越え、女性は性的に解放されねばならないという。

こうした主張に日本で接すると、過激なような印象を受けるが、現在では、アメリカで求人にあたり、性別を提示するのは禁止されている。したがって、「25歳未満の独身女性」などと記載すると、雇用機会均等化委員会 EEOC (Equal Employment Opportunity Commission) などからの是正を求める訴訟を受けるはめになる。

もっとも、こうした問題は性に限らず、アメリカでは求人にあたり、生年月日、出生地、国籍、家族構成などを記載させると差別行為

になる。

昨年、ホノルルを訪ねた折、日本企業の経営者に会う機会があったが、あるフロアのあるセクションが、女性だけ、あるいは白人だけだったりすると、とたんに訴えられ、莫大な金額を支払わなければならなくなるという。もちろん、採用にあたって、性や未婚かどうかはむろんのこと、容姿などにふれるのもタブーで、といって未婚女性を実際に求めている場合もあるから、性にこだわらないことを示すたてまえと、実際の求人とのギャップが大きくなると嘆いていた。

実際にも、日本の新聞で報じられるように、プロ野球の審判をめざす女性や、パトロールの警官を望む女性、パイロットを志願する女性などが目につき、多くの場合、訴訟のかたちで決着がつき、男子の城へ女性が進出する結果を得ている。

「セカンド・ステージ」

そうした性差の撤廃について、このところ、行き過ぎを懸念する気運も強まっている。このままでは、女性も軍隊へ動員されるようになるし、深夜労働の禁止も違憲になる。こまかいことを言えば、トイレの男女別もおかしくなる。それに、離婚にあたって、女性だけが慰謝料を手にするのもおかしい。したがって、女性のもつ女性らしさを、ある程度、自然のかたちで認めたらどうかという主張である。

アメリカの離婚率が高いのは周知のとおりだが、近年の傾向として、ウィマンズ・リブに対抗して、男性のほうにも、男らしさを見直そうという気運が強まっている。

日本でも上演された「クレイマー・クレイマー」は、父親にとっての育児のあり方を考えさせるのをテーマとしていたが、その他、無理をしてナイスガイらしい行動をとるのをやめようと訴えるゴールドバーグの「男が崩



壊する」(The Hazards of Being Male)なども、アメリカのマスコミに強い影響を与えたといわれる。

そうした流れが復古調になると、モーガンの「トータル・ウーマン」(The Total Woman)のように、夫を受け入れ(accept)、夫を尊敬し(admire)、夫に協力し(adapt)、夫に感謝する(appreciate)という4つのAを求める動きとなる。このモーガンの著作は300万部の売れゆきを示しただけでなく、彼女の主催するチャームスクールは、かなりの盛況を示しているといわれる。

もちろん、モーガンの立場はあまりに古典的でありすぎようが、ウイマンズ・リップの火つけ役ともいべきフリーダンも、1981年に「セカンド・ステージ」(The Second Stage)を発表している。

その中で、女性の解放そのものは間違っていたとは思わないが、結果として離婚率の増大や家庭の崩壊、アル中の増加、男性愛の急

増などを招き、女性たちは孤立している。したがって、男性と対決をした第1期は、その使命を果たしたのであるから、男性を巻きこんだかたちで人間としてのしあわせを求める第2の段階へ、女性運動は進まねばならないという主張を展開している。

現在のところ、フリーダンの主張は、多くの共感とともに、転向や挫折を指摘する声も少なくないが、全体としては、良識的な指摘とみる人が多いと聞く。嵐のように争ったファーストステージにかわって、実質的な意味での女性の解放を、男性と手を取り合ったかたちでめざしていこうとするのであろう。

そうしたアメリカに引きかえ、日本では、嵐のような争いが認められないまま、実質的には、アメリカ以上に母親たちの意識変革が進んでいるような印象を受ける。以下、そうした母親たちの心の内を、データを通して紹介することにしよう。

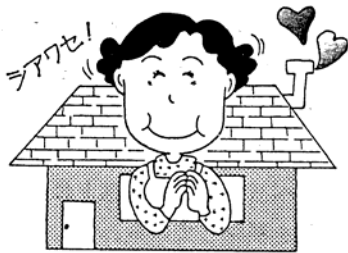
調査レポート／お母さんの教育観

放送大学教授 深谷 昌志

要約

① しあわせな生活

「とても」と「かなり」だけでも45%、「まあ」を含めると84%の母親は、現在の自分をしあわせだと思っている(図1)。



② もう一度若くなれたら



「夫ともう一度結婚してもよい」が、「ぜひ」の24%を含めて、77%に達する。そして、「結婚したくない」は23%である(図3)。

③ 子どもの成長は期待どおりか

全体としてみれば、期待どおりか、あるいは期待以上に成長してくれた。しかし、学力面の伸びはいまひとつという感じがする(表6)。



④ 子どもの未来像

エリートは無理としても、ふつう程度の暮らしは、間違いなく送れるだろうと思う(図5)。



5 塾通いの効果

塾へ通わせたとこで、成績は「まあ上がる」程度であろう(図9)。



6 教職のむずかしさ

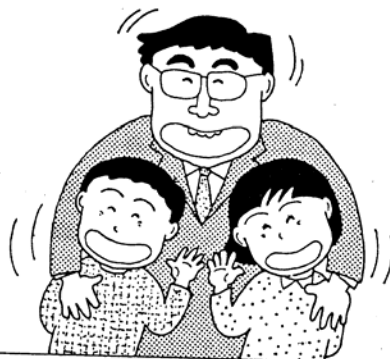
教職は弁護士や医師などの専門職ほどむずかしくなく、看護婦などのセミ専門職に近い。しかし、すぐにつけるかと言われれば、つけないと思う(図8、表14)。



全体として、しあわせな母親というイメージが強い。「夫は仕事熱心で、家庭もだいにしてくれる。それに、子どもも、まあまあ期待どおりに育った。だから、とりあえずしあわせだ。」と思う。しかし、欲を言うと、「子どもの学力面の伸びがいま一歩、という感じが

7 学校への期待

学校は、生活習慣の形成などを除く子どものすべての面で、子どもの人間形成にかかわってほしい(表16)。



する。そして、これから先、そうした気持ちをもっと高まってくると、親としてのしあわせにかげりが生じてこよう。そうした意味では、本サンプルは、かげりの生じる直前の、しあわせな母親像を描いている。

調査概要およびサンプル数

対象●東京在住の小学生をもつお母さん
980名

時期●昭和58年10月

方法●学校通しによる質問紙調査

1. 母親たちのライフスタイル



純粹の戦後派世代

まず、本調査に協力してくれた母親たちの属性を概観してみよう。

①年齢……平均37.8歳

33歳以下	14.4%
34～36歳	27.2%
37～39歳	19.9%
40～42歳	21.5%
43歳以上	17.0%

②学歴……高校卒が半数

中学卒	3.9%
高校卒	50.7%
短大卒	21.6%
大学卒	19.3%
その他	4.5%

③子どもの数……平均2人

1人	14.2%
2人	61.8%
3人以上	24.0%

④現在の仕事……専業主婦

専業主婦	58.7%
パート	16.1%
フルタイム	10.4%
家業	9.7%
その他	5.1%

このようにみてくると、サンプルが、ごく標準的な30代後半の女性であるのがわかる。

さらに言えば、38歳という平均年齢を手がかりにすると、彼女たちは、昭和21年生まれということになる。純粹に戦後生まれの世代

が母親となり、その子たちが小学生になったのであろう。

純粋な戦後派世代の母親第一期生の教育観を反映していると言えなくもない。

そうした意味で、以下に紹介する結果は、

しあわせな家庭生活

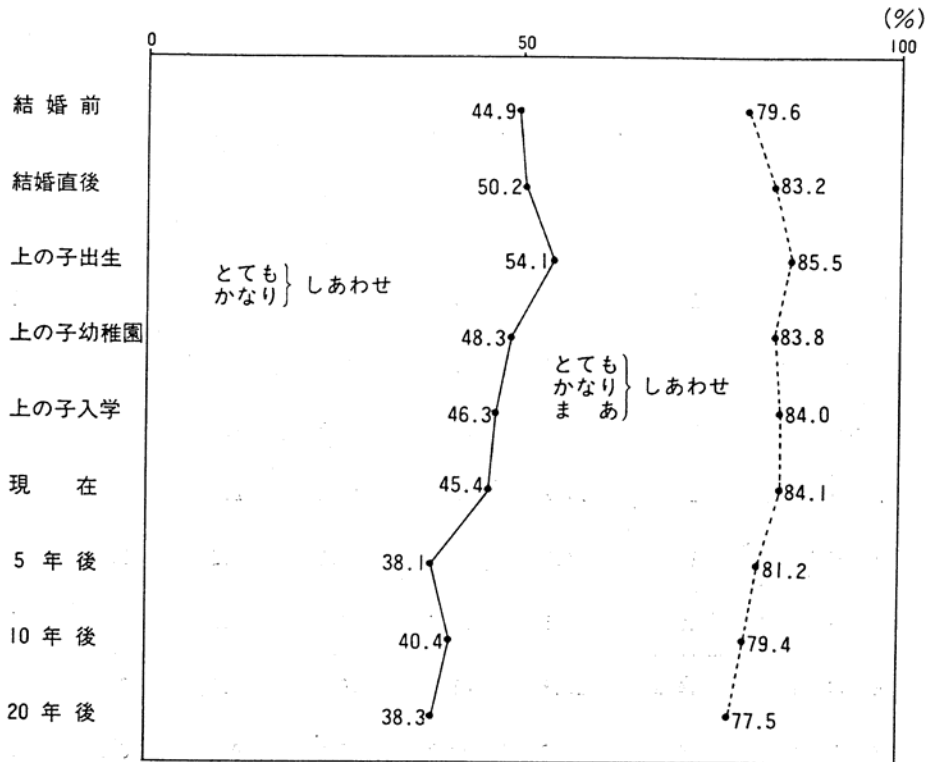
母親たちにしあわせかどうかをたずねたところ、以下のような数値が得られた。

しあわせ { とても 20.9% } 45.4% } 84.1%
 { かなり 24.5% }
 { まあ 38.7% }

半分半分 11.9% } 15.9%
 { まあ 1.6% }
 ふしあわせ { かなり 1.6% } 4.0% }
 { とても 0.8% }
 「とても」「かなり」しあわせな母親がほ

図1 しあわせ感の推移

— おおむねしあわせ —



は半数、これに「まあ」を含めると、8割以上の母親が、しあわせという感じになる。そして、ふしあわせを感じる母親は4%にすぎないが、この調査に限らず、しあわせの層が厚いのが現代の特性であろうから、この程度の数値はあらかじめ予想されとも言えなくもない。

そこで、こうしたしあわせ感がどういう変化をたどって現在に至っているのかを調べると、図1(表1)のとおりとなる。結婚して長子が生まれるころまでが、とてもしあわせだった。そのころと比べると、しあわせにかけりが生じた感じがしないでもないが、それでも半数近い母親が、とても、あるいはかなりしあわせだと思っており、そうしたしあわせは将来も続くだろうという。

こうしたしあわせ感は、とりあえず、夫婦の円満さのもたらしたものであろう。そこで夫についての評価を求めると、図2(表2)のような結果が得られる。

かりに、70点以上を合格とするなら、職業人としては9割以上、そして父親、あるいは夫としては8割前後が、夫に合格点を与えている。もっとも、自分自身についても、母親としてはよくやっているつもりだし、女性、あるいは妻として合格点をもたらえるつもりだとこたえている。

さらに、図3によると、もう一度若くなれたとして、「あなたの前に若い青年としてご主人があらわれたら」との設定に、4分の3以上の母親が、夫ともう一度結婚してもよいとこたえている。

表1 しあわせ感の推移

(%)

項目	尺度	しあわせ			半分 半分	ふしあわせ		
		とても	かなり	まあ		まあ	かなり	とても
過去	結婚前	20.4	24.5	34.7	16.9	1.9	1.1	0.5
	結婚直後	23.8	26.4	33.0	12.9	2.3	0.8	0.8
	上の子出生	26.9	27.2	31.4	11.2	1.3	1.7	0.3
	上の子幼稚園	21.1	27.2	35.5	11.8	2.4	1.3	0.7
	上の子入学	21.8	24.5	37.7	12.0	2.2	0.9	0.9
現在		20.9	24.5	38.7	11.9	1.6	1.6	0.8
未来	5年後	14.3	23.8	43.1	16.6	1.0	0.7	0.5
	10年後	15.3	25.0	39.0	18.8	0.8	0.3	0.8
	20年後	16.9	21.4	39.2	20.4	1.1	0.1	0.8

図2 夫と自分についての採点

—職業人としてはむろん、夫としても満足—

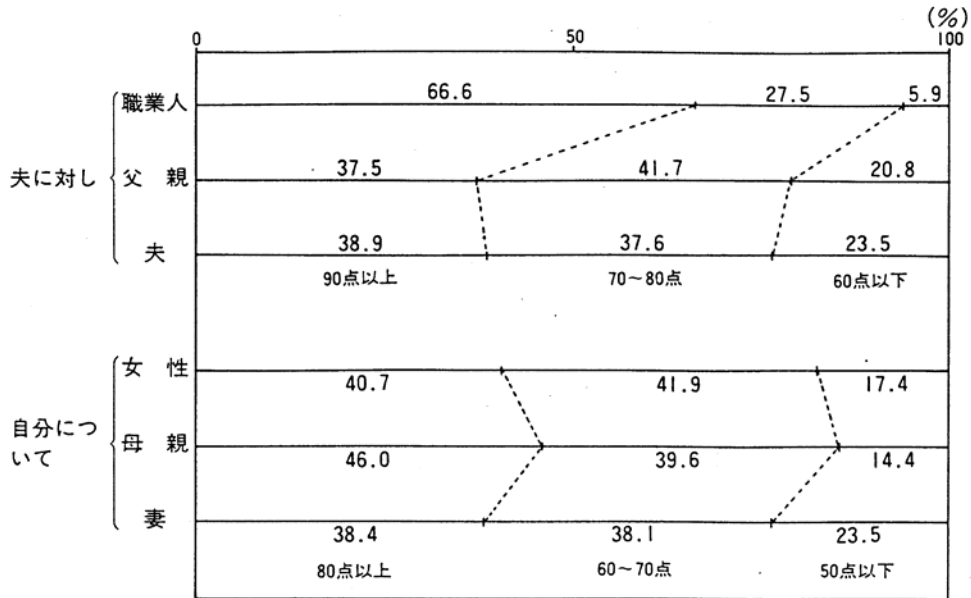
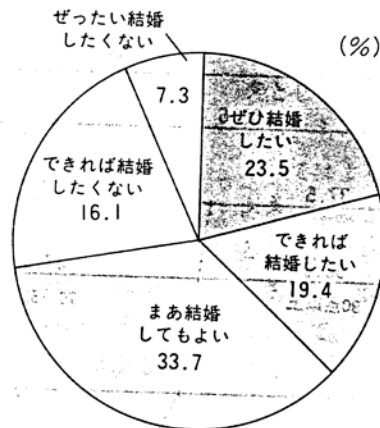


表2 夫と妻の採点

(%)

項目		100点	90点	80点	70点	60点	50点	30~40点	10~20点	0点
夫	職業人	32.7	33.9	21.1	6.4	1.9	2.7	0.7	0.3	0.3
	父親	13.3	24.2	26.1	15.6	5.8	9.4	2.6	2.2	0.8
	夫	14.5	24.4	25.4	12.2	5.5	10.3	3.0	3.1	1.6
妻	女性	2.4	8.8	29.5	27.3	14.6	13.5	2.8	0.3	0.8
	母親	3.6	12.3	30.1	26.9	12.7	10.2	2.9	0.5	0.8
	妻	3.5	10.8	24.1	23.4	14.7	15.0	4.7	2.2	1.6

図3 もう一度若くなれたら、ご主人と結婚するか
 —「結婚したくない」が1/4—



どんな生き方をしたいか

このように夫に充足感をもち、まあまあしあわせな生活を送っているのが、サンプルの概要であった。そして、女性として、服を作ったりする力で欠けるかもしれないが、その他の面ではふつうくらいの力量はあるという自己評価を抱いている(表3)。

しかし、そうは言っても、母親としての現在に、かならずしも十分な充足感は抱いていないようで、表4のように、

専業主婦	現在	58.7%
	これから先	39.4%
	生まれ変わったら	21.9%
フルタイム	現在	10.4%
	これから先	27.7%
	生まれ変わったら	40.0%

と、専業主婦でなく、フルタイマーとして、職業をもった人生を歩んでみたいと思っている女性が多い。

しかし、そうした願いはともあれ、現在のところ、母親たちは、表5のとおり、新聞に目を通してはいるだけでなく、「ときどき」であるにせよ、話題になっている本を読んだり、テレビの情報を活用して料理をしたりする生活を送っており、そうした意味では、かつての女性たちとひと味ちがった生活スタイルをもつ母親と言えよう。

いずれにせよ、全体としてみると、しあわせであるとともに、意欲的な生活を送っているのが、母親たちの平均的な姿だと考えられる。

表3 女性としての力

—ふつうくらいの力量—

(%)

項目	あ る			ふつう くらい	な い		
	はるかに	かなり	小 計		あまり	ぜんぜん	小 計
料理のうで前	6.3	30.4	36.7	53.2	9.3	0.8	10.1
そうじのうで前	7.3	27.6	34.9	47.9	15.5	1.7	17.2
家計のきりもり	7.5	26.4	33.9	48.2	15.8	2.1	17.9
子どものしつけ	4.4	28.8	33.2	58.4	7.9	0.5	8.4
職業的な力	5.6	25.5	31.1	37.5	22.7	8.7	31.4
体 力	6.0	23.3	29.3	47.1	20.1	3.5	23.6
社会の知識	5.5	23.8	29.3	56.2	13.0	1.5	14.5
子どもの教育	3.3	19.5	22.8	66.9	9.5	0.8	10.3
服を作る力	5.3	14.4	19.7	27.6	30.5	22.2	52.6
お金をかせぐ力	3.7	15.9	19.6	36.4	29.8	14.2	44.0

(同じ年齢くらいの女性と比べて)

表4 主婦としての生き方

—できたら仕事をもつ女性に—

(%)

項目	生き方	専業の主婦	パート	フルタイム		その他	
現在	専業の主婦	58.7	16.1	10.4		家業の手伝い 9.7	その他 5.1
これから先	専業の主婦	39.4	家庭を大事にしつつパートへ 32.9	このままフルタイム 15.0	いずれフルタイム 12.7	店をもつ	
生まれ変わったら	専業の主婦	21.9	家庭と両立しつつパートも 26.9	フルタイム 6.8	専門職に 33.2		

表5 ふだんの行動の仕方

— 意欲的な生活を送っている —

(%)

項目	している			していない	
	いつも	だいたい	ときどき	あまり	ぜんぜん
新聞の1～2面に目を通す	29.4	40.9	23.2	5.6	0.9
料理番組をヒントに料理を作る	7.0	21.1	51.7	15.0	5.2
話題になっている本を読む	3.9	19.8	49.0	20.2	7.1
教育などの講演会に出席する	1.3	6.7	31.5	36.2	24.3

2. 子どもとの関連の中で



親たちの抱く子ども像

今までふれてきたように、母親たちは、主として、夫との関係ではしあわせな生活を送っていた。それでは、子どもとの関係はどうか。

表6に、子どもの成長が予想どおりなのかどうかをたずねた結果を示した。体力や性格の面では、おおむね予想どおりか、あるいは予想を上回っているが、学力ややる気の面で、予想を裏切った感じもするという評価である。

そこで、子どもに対するそうした評価を、母親自身の子どものころと対比させて示すと、

図4(表7)のとおりとなる。表6と同じように、その他の面では自分の子どもころと変わらないが、自分のほうがリーダーシップをもっていたつもりだし、それに勉強が得意だったというのが母親の評価である。

もっとも、母親の場合、表7によると、「やや」を含めると50.1%が、勉強が得意だったとこたえており、苦手だったという回答は11.4%にとどまっている。したがって、悪気でないにせよ、母親たちが、昔は勉強ができたと過去を美化してとらえている可能性が強い。

表6 子どもの成長は期待どおりか

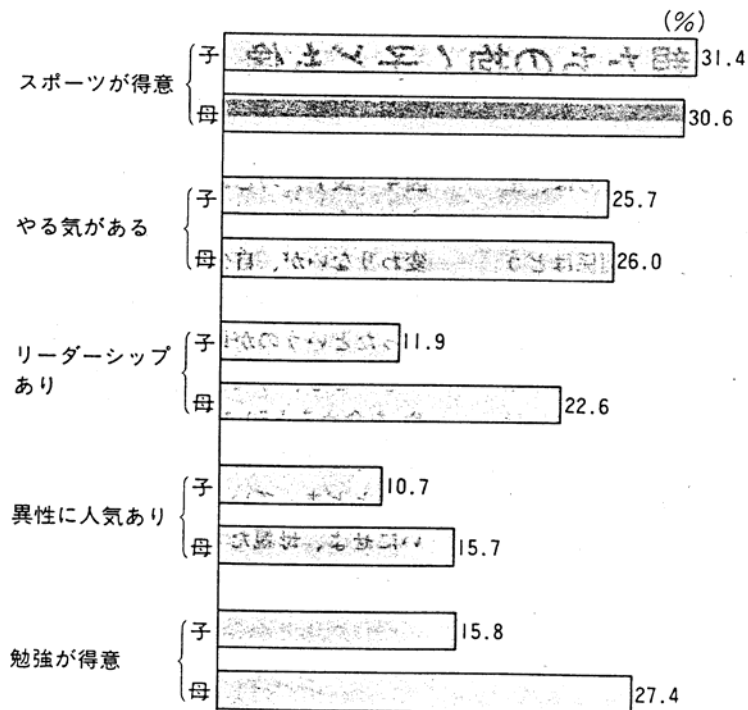
—ほぼ予想どおりだが—

(%)

項目 \ 尺度	予想以上		予想どおり	期待を裏切った	
	やや	や		やや	大きく
体力の面	17.8	20.8	46.1	13.7	1.6
	38.6			15.3	
友だちの数	14.5	23.1	51.2	10.3	0.9
	37.6			11.2	
性格の面	10.3	23.6	52.0	13.3	0.8
	33.9			14.1	
やる気の面	7.3	21.5	44.9	22.9	3.4
	28.8			26.3	
学力の面	5.4	17.2	53.7	21.2	2.5
	22.6			23.7	

図4 子どもと母親の子どものころとの対比

—自分のほうが勉強が得意だった—



数字は「とても」+「かなり」の割合

表7 子どもと母親の子どものころ

(%)

	A	A			ふつう	B			B
		とても	かなり	やや		やや	かなり	とても	
子ども	スポーツが得意	12.6	18.8	19.6	31.1	9.3	5.3	3.3	苦手
		31.4		60.0			8.6		
	やる気がある	8.3	17.4	25.0	30.7	12.4	3.3	2.9	ない
		25.7		68.1			6.2		
	リーダーシップあり	3.2	8.7	18.5	41.3	8.2	7.3	12.8	ない
	11.9		67.9			20.1			
母親の子どものころ	異性に人気あり	2.6	8.1	17.8	60.4	6.2	2.1	2.8	ない
		10.7		84.4			4.9		
	勉強が得意	2.5	13.3	21.8	44.8	10.5	4.2	2.9	苦手
		15.8		77.1			7.1		
	スポーツが得意	12.8	17.8	15.0	29.5	12.9	7.4	4.6	苦手
	30.6		57.4			12.0			
母親の子どものころ	やる気がある	8.9	17.1	23.0	37.4	7.9	3.2	2.5	ない
		26.0		68.3			5.7		
	リーダーシップあり	7.9	14.7	17.5	35.7	8.0	5.5	10.7	ない
		22.6		61.2			16.2		
	異性に人気あり	5.6	10.1	17.1	56.0	6.8	2.8	1.6	ない
	15.7		79.9			4.4			
母親の子どものころ	勉強が得意	7.9	19.5	22.7	38.5	6.9	2.0	2.5	苦手
		27.4		68.1			4.5		

子どもの将来について

いずれにしろ、母親たちは、子どもにおおむね満足しながら、勉強の面に不満を感じているように見える。もっとも、表8に示したように、母親たちは、子どもの将来について、「このままいけば、有名校は無理としてもまあまあの高校へ入学でき、そして一応の大学へも進学できそうだ。さらに、かりに一流企業への入社を希望すれば、無理をすればなんとか入れるだろう。」と見通している。

そうした意味では、高望みをしなければ、まずまずの生活を送れそうだと母親たちが思

っているのがわかる。実際にも、図5のように、エリートとして社会的に活躍するのは無理としても、ふつう程度の暮らしは十分にできるし、それに良い父・良い母になれるのは間違いないだろうという評価を、子どもにくだしている。

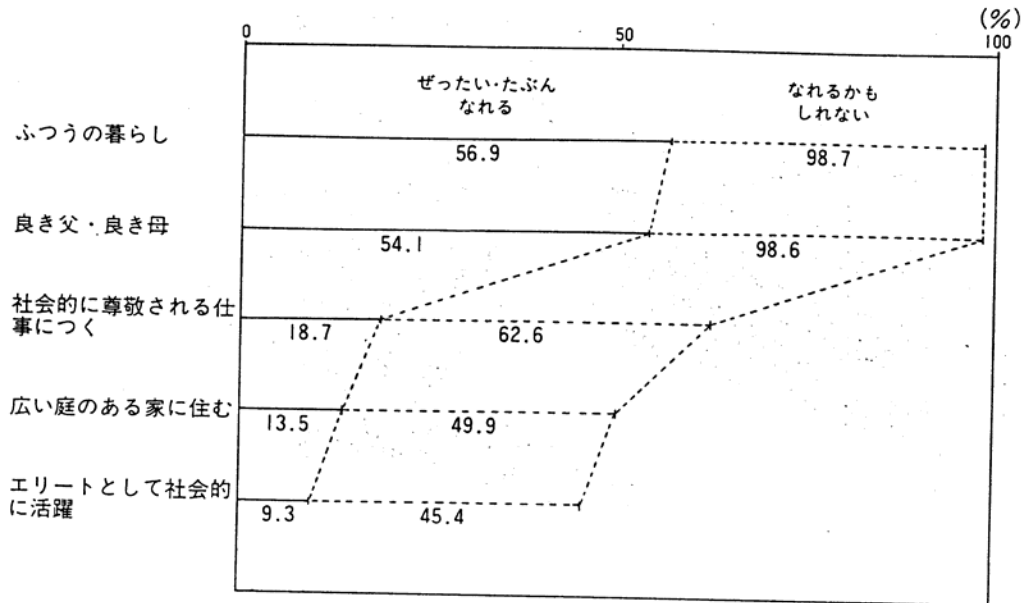
まずまずの生活を送れそうなのであるから、親としてもそれほど心配はしていないのであろうが、それでも、「望みを言わせてもらえぬなら、もうちょっと子どもなりになんとかならないか。」という気持ちもしてくる。

表8 子どもの将来
—まあまあの進路をとれそう—

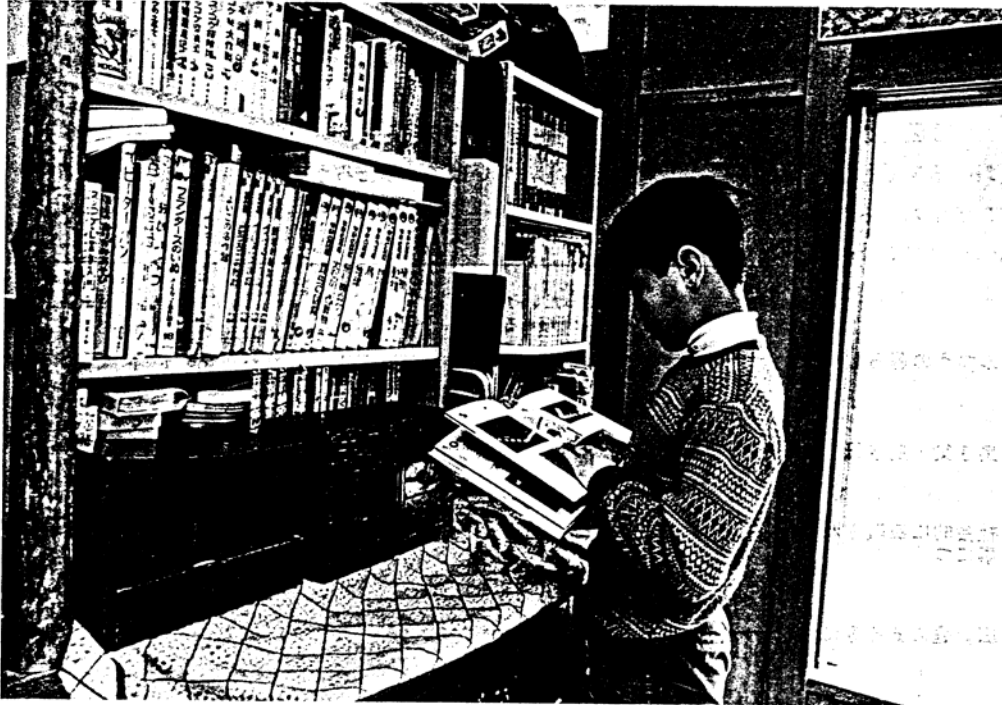
(%)

進路	有名校	一応のところ	まあまあのところ	あまり満足できない	進学しない
	高校進学	6.3	40.7	39.0	13.3
		(79.7)		14.0	
大学進学	一流大学	有名なところ	まあまあのところ	あまり満足できない	進学しない
	5.6	27.5	42.1	15.2	9.6
		(69.6)		24.8	
一流企業への入社	たいじょうぶ	たぶん可能	やや無理	かなり無理	とても無理
	0.7	42.8	41.7	9.8	5.0
		(84.5)		14.8	

図5 子どもの未来像
—ふつうの暮らしぐらいはできるだろう—



3. 子どもの勉強をめぐるって



成績の現実と理想

そうした望みを限りなく抱くのが親心であろうが、とくに勉強面での不満が強いのは、すでにのべたとおりである。そこで、成績の実際と希望（がんばればやれるはず）とを対比して示すと、図6（表9）となる。成績の上位の子は、現実問題として3割前後にすぎない。しかし、7割近い母親は、うちの子もがんばれば成績が上位になるはずと思っている。つまり、全体としてみると、

成績の良い子をもつ母…… 3割
母親 { 良くはないが、良くなるはずと思っている母 …… 4割

良くなるのはむずかし…… 3割
いと思っている母

となる。

さらに言えば、表10のように、家庭での勉強をがんばっていると思えないだけに、子どものがんばりを期待するのであろう。

表11のように、親たちは、成績が良かったからといって望みの高校へ入れるというわけではないが、それにしても、成績の良し悪しは、勉強の努力に比例するという。

なにしろ、子どもの成長で気がかりなのは学業成績なのであるから、そして、努力によって成績が良くなるとあれば、「勉強しなさい」という言葉も増えてこよう。

図6 成績上位の占める割合

—もったがんばれるはずだ—

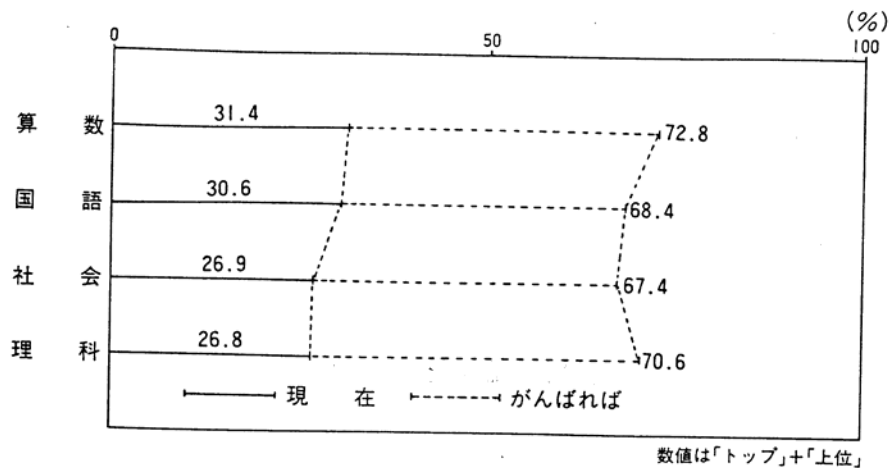


表9 成績の現在と希望

(%)

教科	成績	成績					
		トップ	上位	中の上	中位	中の下位	うしろのほう
現在	算数	4.0	27.4	28.3	27.7	7.9	4.7
	国語	3.4	27.2	25.4	31.1	9.0	3.9
	社会	3.1	23.8	27.6	31.9	9.7	3.9
	理科	3.1	23.7	29.9	31.5	8.4	3.4
がんばれば	算数	24.6	48.2	21.1	4.8	0.8	0.5
	国語	22.7	45.7	25.2	5.5	0.5	0.4
	社会	21.4	46.0	24.7	6.7	0.8	0.4
	理科	23.2	47.4	22.0	6.3	0.7	0.4

表10 家庭での勉強をがんばっているか

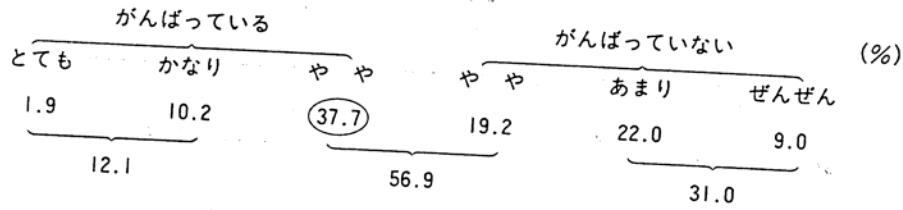


表11 母親たちの勉強観

—成績の良し悪しは努力を反映している—

項目	尺度	その通り			半分 半分	ちがう		
		まったく	かなり	やや		やや	かなり	まったく
成績の良し悪しは予 復習の努力に比例		24.2	39.8	23.0	9.9	1.6	0.7	0.8
		64.0			34.5			
きちんと勉強していれ ば望みの学校へ入れる		8.3	18.9	20.8	24.1	14.4	7.8	5.7
		27.2			59.3			
小学校時代の成績は大 学入試に通じる		2.0	9.2	16.8	33.8	17.0	11.6	9.6
		11.2			67.6			

成績を良くするには

それならば、成績を良くするのにどうしたらよいか。母親たちの回答を表12に示したが、

- ①成績が良くなる——授業を熱心に聞き、予習や復習をきちんとする
- ②まあ良くなるという程度——学習塾へ通ったり、家庭教師につくが、多くの親たちの考え方であった。勉強の努力といっても、ことさら変わった

ことをする必要はない。まじめに先生の話聞き、帰宅してからきちんと復習をすれば、成績は良くなるという考えで、これならばむしろ堅実な見方であろう。

そして、図7のように、直接勉強の相手をするとはめったにないといっても、テストには目を通してというし、表13によれば、小学校程度の勉強なら教えられそうだとも思っている。

表12 どうすれば成績が上がるか
—授業をよく聞き、きちんと復習をする—

(%)

項目	尺度	よくなる				変わらない	むしろ悪くなる	小計	1項目選択
		ぐんと	かなり	小計	まあ				
復習をきちんとする		26.4	53.3	79.7	17.7	2.5	0.1	2.6	40.3
授業を熱心に聞く		23.9	49.1	73.0	21.0	5.9	0.1	6.0	39.9
家庭教師につく		6.0	27.0	33.0	42.1	27.5	4.4	32.5	7.6
予習をきちんとする		19.9	51.2	71.1	23.7	5.1	0.1	5.2	7.4
学習塾へ通う		2.4	19.1	21.5	46.0	27.2	5.3	32.5	3.5
参考書をたくさん買う		0.3	7.4	7.7	33.7	55.1	3.5	58.6	0.7

図7 勉強相手になっているか
—テストには目を通している—

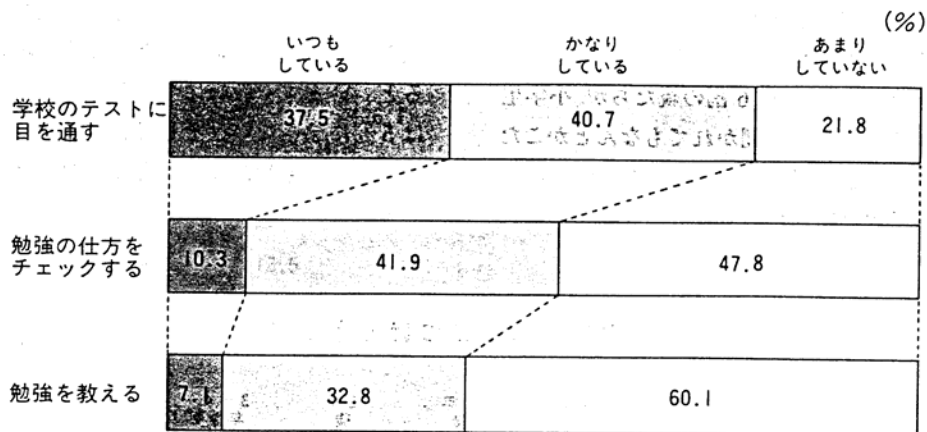


表13 いつまで教えられるか

—小学生のうちには教えられる—

学年 教科	小学校				中学校			高校 まで
	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	
国語	5.6 (100.0)	8.2 (94.4)	10.2 (86.2)	28.8 (76.0)	10.7 (47.2)	5.5 (36.5)	15.0 (31.0)	16.0 (16.0)
算数	8.1 (100.0)	16.0 (91.8)	16.8 (75.8)	28.9 (59.0)	12.1 (30.2)	5.3 (18.1)	8.5 (12.8)	4.3 (4.3)
社会	7.2 (100.0)	10.3 (92.8)	12.8 (82.5)	31.6 (69.7)	11.4 (38.1)	4.3 (26.7)	11.4 (22.4)	11.0 (11.0)
理科	10.3 (100.0)	14.0 (90.6)	15.9 (76.6)	35.2 (60.7)	9.5 (24.6)	3.1 (15.1)	7.7 (12.0)	4.3 (4.3)

下段は、それぞれの学年で子どもの勉強を見られる割合

勉強を教えられるか

算数を例にすると、小学校3年の算数なら、100%の母親が、子どもの相手になれるという。そして、小4でも92%、小5で76%、小6で59%となる。つまり、6割の親たちが、小学生レベルの算数なら、聞かれてもなんとかこたえられると思っている。母親たちの学歴が高くなってきた結果が、こうした面にあらわれ

ているのであろう。

もちろん、そうはいつでも、母親たちが教職を易しいとみていることはなく、表14によると、いますぐ教職につけると思っている者は5%にすぎない。そして、4割近い母親は、がんばっても教師になれそうもないと感じている。

表14 教職につけそうか

	いま すぐに	1ヵ月 後	3ヵ月 後	半年 後	1年 後	2年 後	3~4 年後	5年 後	とても 無理
	4.9	1.4	1.8	4.2	14.0	11.6	15.8	7.1	39.2
	7.4				25.6		22.9		
	37.9					62.1			

教職への評価

図8のように、教職のむずかしさは、美容師や看護婦をやや上回る程度だという。この図は、半年の準備期間があったら、資格の有無はともかくとして、その仕事につけそうかというかたちで、仕事の難易度をたずねたもので、

①つけそうもない
——専門職

医師	1%
弁護士	2%
大学教授	2%

②半年ではむずかしいが、もう少し期間があればつけるかも
——セミ専門職

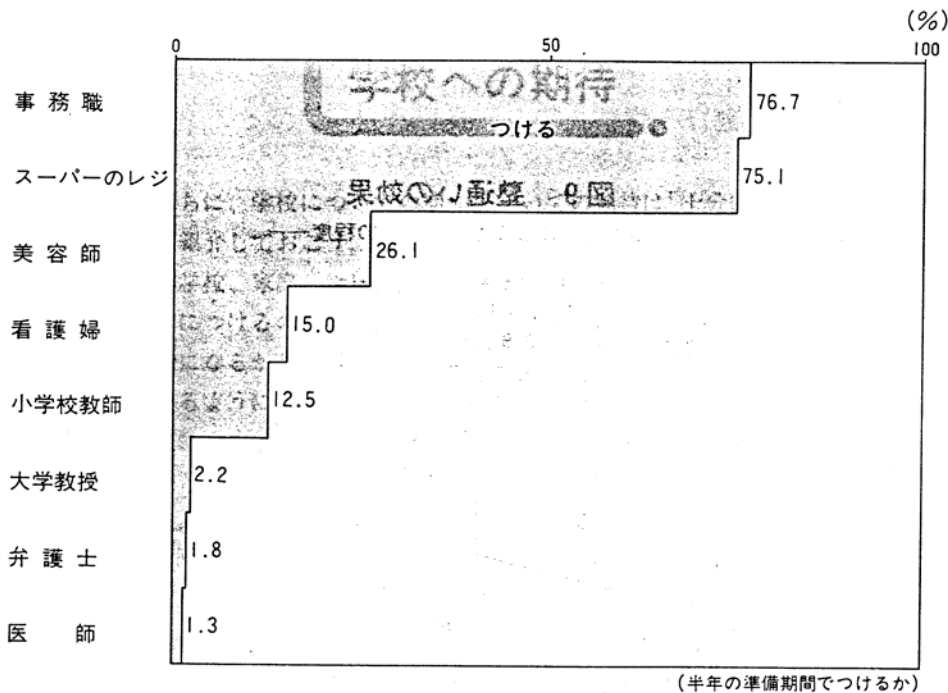
小学校教師	13%
看護婦	15%
美容師	26%

③半年あれば十分つける
——事務職

スーパーのレジ	75%
事務職	77%

(以上、数字は半年の準備期間があれば仕事につけるとする人の割合) のように、全体を三分できる。そして、教職は、セミ専門職に位置している。

図8 教職の難易度



塾通いについて

このようにみえてくると、授業をよく聞き、復習をきちんとすれば、ある程度の成績がとれるし、いざとなれば親も教えられるのであるから、静かな家庭学習の姿が浮かんでくる。そして、塾通いのイメージは浮かびにくい。しかし、週に何日も、夜遅くまで塾通いをする子どもも少なくない。実際にも、本サンプルの場合、塾通いの実態は以下のとおりである。

学習塾へ	行っている	週1日	4.9%
		2日	15.8%
		3日	13.4%
	行っていない	4日以上	3.2%
		将来行かせる気があり	35.3%
		なし	27.4%
37.3%		62.7%	

塾通いをしている子どもが、4割を下回っ

ているといっても、35%の親は、いずれ塾通いを考えているので、将来とも塾通いしない者は、27%になってしまう。

親たちは、図9のように、塾通いをしたところで、成績は、やや上がる程度だろうと考えている。さらに、表15によれば、塾通いの背景として、

- ①多少関係がある
 - 1 学校でわかるまで教えてくれない
 - 2 学校で個性を伸ばしてくれない
- ②とても関係がある
 - 1 子の力以上を望む親の気持ち
 - 2 よい学校へ入れるのには、学校の勉強だけでは不十分

と考えている。

図9 塾通いの効果
—良くなるにしても「やや」の程度—

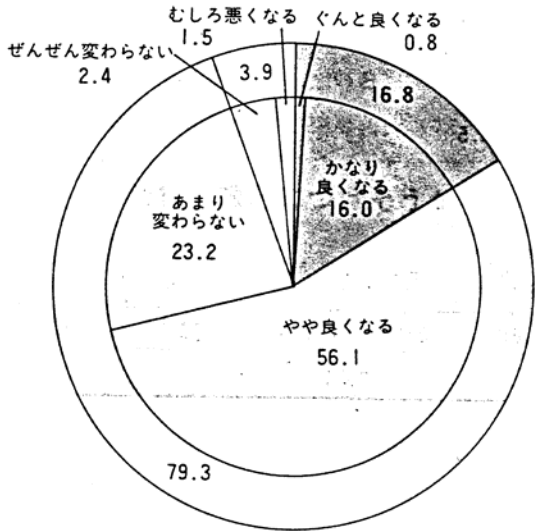


表15 塾通いの背景

—よい学校へ子どもを入れたいから—

(%)

項目	尺度		半分半分	思わない	
	そう思う	やや		やや	
よい学校へ入るのに学校だけでは不十分	43.0	33.4	14.4	4.4	4.8
	76.3			9.2	
親が子の力以上の高望み	37.0	33.9	15.4	7.2	6.5
	70.9			13.7	
学校ではわかるまで教えない	18.7	24.1	26.3	12.5	18.4
	42.8			30.9	
学校では個性を伸ばせない	12.7	25.6	25.1	14.2	22.4
	38.3			36.6	
塾に行かないと勉強しない	12.5	33.2	27.8	10.2	16.3
	45.7			26.5	
他の友が行っているから	5.8	18.5	23.1	17.6	35.0
	24.3			52.6	

学校への期待

念のために、親たちに、学校についての期待をたずねた結果を紹介しておこう。表16は、学力や体力などを、学校、家庭、地域、学習塾のうち、どこで身につけるのが望ましいのかを、トータルが10になるかたちで求めたものだが、一目でわかるように、学校についての期待が高い。基礎的な生活習慣は家庭で身につけたほうがよいと思うし、情操を育てることも家庭の使命であろう。しかし、学力はむろんのこと、体力や友だちづき合いの力は、主として学校を通して育ててほしいという。

正直なところ、地域の教育力を低く評価しすぎている気がするし、学習塾やけいこごとの機能も、実際以上に低く評価している。そして、学校崇拜にも近い感情が残っている気がする。

さらに、表17によると、そうした学校につ

いての期待は「十分に」とは言えないまでも、「ある程度」までなら、学校を通して身につけられるという。とくに、学力については、95%の親たちが、学校で学力がついているとこたえている。

つまり、学校には期待をかけているし、実際にも、学校はそうした期待にこたえてくれているというのである。

そうだとするなら、塾通いをする必要はなさそうだが、すでにふれたとおり、将来も含めると6割以上の家庭は塾通いをする予定下にある。あらためて表15をみると、「よい学校へ入れるのに、学校の勉強だけでは不十分」が76%に達している。つまり、平均的な学力をつけるだけなら、学校はそれなりの機能を果たしている。しかし、高望みかもしれないが、子どもの可能性を最大に伸ばしたいと思

う。そう思うところから塾通いが始まり、その結果として、成績の良し悪しにこだわりをもつ子が育ってくる。

もちろん、本サンプルは、小学生をもつ母親であり、進学をめぐる状況は、これから、

子どもが中学、そして高校へと進むにつれて深刻さを増す。そうなったとき、この母親たちは、進学の渦に巻きこまれていくのであろう。そうした意味では、本レポートは、嵐の前の静けさを描いたものと言えなくもない。

表16 どこで身につけるのが望ましいか

—学校に強い期待が集まる—

(%)

項目	場所			
	学校	家庭	学習塾 けいこ	地域
算数や国語の学力	8.3	1.1	0.5	0.1
基礎的な体力	6.4	2.4	0.3	0.9
友とつき合う態度	6.3	1.9	0.3	1.6
やる気やがんばる力	5.4	3.2	0.7	0.7
豊かな情操	4.5	3.7	0.5	1.3
基礎的な生活習慣	3.7	5.4	0.1	0.8

表17 学校を通して身につけられるか

—ある程度身につけられる—

(%)

項目	身につけられる		なんとも いえない	身につけられない	
	十分に	ある程度		あまり	ぜんぜん
友とつき合う態度	35.6	56.2	6.0	1.9	0.3
	91.8			2.2	
算数や国語の学力	33.1	62.1	3.8	0.9	0.1
	95.2			1.0	
基礎的な体力	16.6	67.1	12.3	3.6	0.4
	83.7			4.0	
やる気やがんばる力	12.1	62.7	17.9	6.4	0.9
	74.8			7.3	
豊かな情操	6.6	54.3	25.9	12.1	1.1
	60.9			13.2	
基礎的な生活習慣	5.5	54.3	20.3	18.4	1.5
	59.8			19.9	

まとめに代えて

「わが子」中心の見方

このデータを読んでいると、矛盾を感じる。母親たちは、子どもはますます期待どおりに育っているし、学校もそれなりに機能を果たしているところだとしている。そうだとするなら、塾通いなどおきるはずがないのに、本サンプルでも、4割近い子どもは塾通いをしている。

そのあたりの気持ちをさぐる項目をあげるなら、「上の学校を望もうとすると、いまの学校の教え方だけでは不十分」（表15）が目につく。

“標準的な意味では気がかりなことではない。しかし、うちの子は、そうした標準を越えて、可能性を十二分に伸ばしてやりたい。そう思うのは親心であろう。しかし、子どもの可能性に期待を託す気持ちが現在以上に強まってくると、あせりが生じ、そして、母親としての悩みもつってくる。

子育てとはあきらめから

幼児までの子どもは、可能性にみちみちている。願うことはなんでもかなうようにもみ

える。しかし、小学生、中学生と、子どもが成長するにつれて、子どもの個性が育ってくると同時に、子どもに願いを託す限界もあらわになりはじめる。

あたりまえのことながら、親が子どもに生命を授けたのはたしかだが、子どもの人生は子どものものであって、親の思うとおりにならない。そうした、親としての悲しみを感じはじめるのが、小学校高学年の母親なのであろう。

もちろん、子どもに望みを抱くなどというのでなく、子どもにより大きな望みをもちつつ、その一方で、子どもには子どもの人生があると、一線を画した気持ちをもつ。それが、小学生をもつ母親にとって必要な態度なのであろう。そして、子どもの成長につれて、後者の気持ちがより多くなっていく。それが、母親としての心の成長と考えられる。そうした意味では、これから、親としての気持ちを少しずつ弱めていき、一人の人間として子どもをみつめる態度が、これから必要となってくるのであろう。

※おことわり：本文中に使用した写真は本文・テーマとはいっさい関係ありません。

講座●																		
子ども調査入門⑫																		
報告書の作成																		
																		●放送大学教授
																		●深谷昌志

報告書作成は責務

ひとつの調査を計画し、実施して集計するまでには、何か月もの歳月とかなりの労力や費用を必要とする。加えて何百、あるいは何千人かのサンプルの協力を得ている。

それだけに、集計が終わったら、なんらかのかたちで報告書を作成し、その成果を社会的に還元する必要がある。もっとも調査費用が豊富にあって、予算の心配なしに報告書づくりに入れる場合は少ない。県や市などから委託された調査を除くと、集計や作図に費用を使いきってしまい、報告書に回せる財源がないことも多い。

そうした場合にも、わら半紙数枚のものでよいから、簡単なレジュメをつくろう。

報告書をつくる理由を、あらためて説くま

でもなかろうが、まず、調査協力者にデータを還元する必要がある。子どもを対象にした調査を例にとれば、実施にあたり、担任や子どもたちの協力を得ている。もちろん、調査のすべてが子どもの理解に役立ち、明日からの教育実践にただちに貢献できるものではあるまい。

正直に言って、研究とは、本来、地味なもので、何回かの調査を重ねて、やっと、事実の一端に迫れるような場合が少なくない。というより、そうした積み重ねが研究そのもので、換言するなら、そうした蓄積の上に、新しい研究が育ってくる。

そうはいうものの、それは、調査実施者の論理で、調査に協力したサイドとしては、報告書を手にしたものの、ありがたみを感じられない場合もあろう。しかし、それでも、あ

の時に協力した調査はこんな意味をもって
いたのか、と理解してもらうためにも、報告書
を送り届けるようにしたい。

とくに、調査を手がけはじめると、年を追
っていろいろな種類の調査を実施するよう
になるから、データを返す習慣をつけておこう。

こうした協力者への配慮とは別の問題とし
て、誰が調査を担当したにせよ、得られた結
果を、社会全体の共有財産とするために、資
料を公開するのが、調査担当者としての責務
であろう。

調査を計画すると、先行研究を調べる。そ
うしたとき、ちいさな調査であっても、結果
が公開されていると、プリテストとしての意
味をもち、調査票づくりの参考になることが
多い。少なくとも、こうした設問を設けると、
この程度の数値が得られるらしい、それなら
ば、この部分をこう変えたほうがよいとい
うように工夫をこらす。

そうしたかたちで、先行研究を手がかりと
しながら、研究が進んでいく。したがって、調
査を実施した後、すばやく集計して、協力を得た
人はむろんのこと、他の研究者にも、レジ
ュメを配布するのが望ましい。

さらに言えば、報告書を作成することによ
り、自分の成長をあとづけることができる。
あのころ、あんなことを考えていたのかとい
うような記録にもなる。

報告書づくりの下準備

前置きはこの程度にとどめ、さっそく調査
報告書のつくり方を考えてみよう。

教育社会学の研究を始めて、かなりのキャ
リアをふんできたので、未知の人たちから送
られた報告書を手にする機会が多い。

そうしたとき、さっそく目を通すようにし
ているのだが、残念ながら報告書以前という
印象を受けるものが少なくない。なかには、
よい結果が得られているのにそれを生かしき
れていないもの、あるいは、解釈の仕方が不

正確で、誤解を招きやすいものも見受けられ
る。

そこで、いよいよ報告書づくりのコツにふ
れることになるのだが、その前に、いくつか
の下準備を行ってほしい。

(1) 単純集計の数値を調査票に書きこむ

なんでもないことのようにだが、これだけは
正確に行ってほしい。一項目ずつ、数値を記
載していくうちに、調査結果の全貌がなんと
なく感じられてくる。なお、余力があれば、
たいして時間をとられないので、性別や学年
別、あるいは学校別の集計結果も調査票に書
きこんでファイルしておこう。

なお、報告書を書き終わると、データがゆ
くえ不明になりやすい。そのため、あとで数
値探しに苦勞することになる。そうしたこと
にならないためにも、単純集計の記入をす
すめておきたい。

(2) あらためて、集計のデザインを考える

(1)の仕事と並行させて、集計デザインの手



直しや、つめの作業を急ごう。

たとえば、学業成績についての自己評価を求めたところ、数値は以下のようなちらばりを示した。

勉強が、

① とても得意	3.2%	} 8.3%
② かなり得意	5.1%	
③ やや得意	14.7%	
④ 半分半分	41.2%	
⑤ やや苦手	20.8%	
⑥ かなり苦手	6.4%	} 15.0%
⑦ とても苦手	8.6%	

こうしたときは、①②、⑥⑦を加算して、5つのカテゴリーをつくるか、それとも①～③、④、⑤～⑦の3つのカテゴリーにするかの、いずれかのリコード（コードの仕直し）が必要となる。

別の例をあげるなら、子どもたちに、オープンアンサー（自由記述）のかたちで、家庭にあるテレビの台数の記入を求めた。その結果は、

1台=30.5%	2台=45.1%
3台=16.1%	4台= 5.8%
5台= 1.8%	6台= 0.4%
7台= 0.2%	8台= 0.1%

のとおりであった。

この場合は、とりあえず「4台以上」とし、8.3%でひとつのカテゴリーをつくるか、それ

とも「3台以上」とし、24.4%で3番目のカテゴリーとするのか、いずれかの手直しが望ましい。

このように、データを見ながら、コードのつけ直しやクロス集計の見直しをして、より純度の高い結果を得ようとするのが、この段階の課題となる。

(3) カードをつくって、整理する

カードでも、たんざく型の紙でもよいから、200～300枚を用意して、一つひとつの項目ごとに、印象的な数値を書きこんでいこう。先ほどの勉強やテレビの項目なら、

「勉強=ふつう（半分半分）が4割」

「テレビの台数=3台以上が4分の1」

のように書いてもよい。

その他、「勉強の得意が8%とは少ない」「パーソナル・テレビの時代が到来している」のような感想をメモしておくとか、「◎、○、△、×」の形で、重要と思える順に、しるしをつけておく方法も考えられる。

いずれにせよ、この段階では、全体の流れは考えずに、一つひとつの項目の意味を正確にとらえることに全力を傾けたい。

報告書のコンテづくり

そのつぎに、報告書のコンテをつくろう。初めのうちは、集計が終わるとすぐに報告書を



書き始めようとしがちになる。しかし、報告書の場合、図表の数も多いから、どこの部分に、どの表を使うかを考えておく必要がある。

したがって、報告書のコンテづくりに思いきって時間をかけ、全体の流れが確定してから、一気に執筆するかたちが望ましかろう。その前に、以下のような手続きをふんでほしい。

(1) 重要なデータを抜き出す

先ほどつくったカードのなかから、①予想外であった、あるいは、②大事な意味をもつ、そして、③今まで見たことのない結果だ、などを基準として、重要なデータを30~40枚、抜きとてこよう。

(2) ストーリーをつくる

つぎに、それらのカードをテーブルの上に広げ、論理的にまとまっているものをひとつにまとめ、全体を3~4の群れに分類しよう。

ひとつずつの群れが、報告書の「章」にあたる。そこで、群れを、どの順で提示するかを考え、つぎに、それぞれの群れのなかでカードの配列の仕方を考えよう。

(3) 不要のデータを捨てる

あらためてふれるまでもなく、調査を実施すると、何百の資料が入手できる。しかし、だからといって、それらをすべて利用したのでは、報告書が長くなるだけで、しまりに欠ける。

①意味の薄いもの、②大事なデータだとは思いますが、全体の流れからはずれているもの、③数値が、いまひとつ信頼できないもの、などは、報告書から捨てる。

そして、先ほどのカードを中心に、論理の組み立てに必要なデータを補充しつつ、全体のストーリーをつくっていく。

報告書作成は、ストーリー・メイキングだと思うことが多い。たくさん資料のなかから、どれに意味を見出し、そしてどんなストーリーをつくるのかは、分析者の力量にかかってくる。したがって、同じ資料を使いながら、まったく異なる報告書がつくられること

も考えられる。

データがでてくると、それにひきずられがちであるから、そのテーマに取り組みはじめたころの気持ちを思い出して、シャープな目で、データの質を弁別してほしい。

できることなら、ストーリーを組み立ててから、一週間ほどデータを放置しておくのがよい。そして、あらためて新しい目で、もう一度、ストーリーの展開を考え直してみる。そうした形で、何回かチェックを重ねるほど、報告書全体の論理の整合性が高まってくる。

執筆にあたって

さて、いよいよ執筆に入る。その前に、

①図表は前もってつくっておく。使用する図表は、きちんとつくりあげ、提示する順に、クリップでとめておこう。

②大ざっぱに、章節の目次をつくっておく。

③結論にあたる部分を大事に考え、先行研究のなかから、理論や論理を中心に、もう一度、読み直してみる。

などを、たしかめておきたい。

執筆にあたっての注意事項は、通常の文章づくりと、とくにかわっていることはないが、図表や数値が多いだけに、以下のような点に留意する必要がある。

(1) 問題設定——結果の紹介——今後の課題のステップを追う

調査を手がけた当初、当然のことながら、問題意識や仮説をもっていたと思う。そうしたことを思いおこし、あらためて、きちんとしたかたちで問題設定を書き込む。

つぎに調査結果を紹介し、最後に、今後の課題や問題点を提示するのが、報告書の基本的なスタイルである。

(2) わかりやすさを心がける

数字が多いだけに、調査報告書は読みにくくなりがちになる。しかし、読んでもらわなくては報告書をつくる意味が失われる。それだけに、わかりやすい文章づくりに心がけて

ほしい。とくに、専門用語や英語の乱用を避け、平仮名の多い文を書くようにしたい。

(3) 文のとめ方に気をつける

読みやすさを配慮するといっても、研究なのであるから、正確さを大事にしたい。とくに、文章のとめ方に気を配ってほしい。

間違いなく言いきれることなら「……である」のかたちになろうが、不確かな部分が残っているようなら、「……であろう」、あるいは「……と考えられる」「……と思われる」が妥当な表現方法となる。

さらに、断定はしにくい、可能性を指摘したいときには、「……とも考えられよう」「ではなかろうか」「との可能性を否定したい」などを使い分けていきたい。

(4) だいたいな数値は、文中で確認しておく

報告書の読み方には、図表を中心として、さっと目を通すスタイルと、文を主にし、図表を参考までに読むかたちとがある。したがって、だいたいな数値は、図表のなかに含まれているものであっても、確認の意味をこめて、文章のなかに引用しておこう。

(5) 調査票と集計結果を巻末に付しておこう

まず、図1に目をとめてほしい。これは、子どもたちのテレビの好き嫌いを番組ジャンル別にまとめたもので、それほど目新しいグラフではない。もちろん、これを表化するのも可能だが、全体の感じを一目でつかんでもらうために、グラフ化してみた。

しかし、問題となるのは、これが調査票のなかでどのような問い方をされたかであろう。そこで、設問文と単純集計の結果とをまとめたかたちで、図2に示してある。

もちろん、図1は、図2をもととして、わかりやすいかたちで要約したものであるから、作為は入っていない。しかし、図1と図2との間に、なんとなく違いがあるような感じがするのも事実であろう。

調査には、こうした例が少なくないので、証拠を提出する意味を含めて、報告書の巻末に、付録として、①調査票の全文と、②単純集計、または性別や学年別の集計結果を付しておくのが望ましい。

(6) 要約をつける

報告書の全文を書いたら、冒頭にでも、結果の要約をつけておこう。つきつめて言うと、報告書のなかで強調したいのはどんな結果なのかをいくつかまとめて書いておけば、読者の読みやすさも増すと思われる。

(7) プライバシーを守る

最後に、サンプルなどの紹介にあたって、プライバシーを配慮する必要があるが、そうかといって、サンプルの属性がわからなくとも困るので、

「東京近郊の住宅地のA小学校、4～6年生870名（男子438、女子432）。調査実施は昭和57年5月」。

のように、対象だけははっきり書いておくのも必要である。

(8) 遅くとも、半年以内に報告書をまとめる

コンピュータなどの発達で、情報処理のスピードが増しているので、報告書は、調査実施後、できることなら3ヵ月、どんなに遅くとも半年以内にまとめて、配布するように心がけてほしい。

図1 好きなテレビ番組

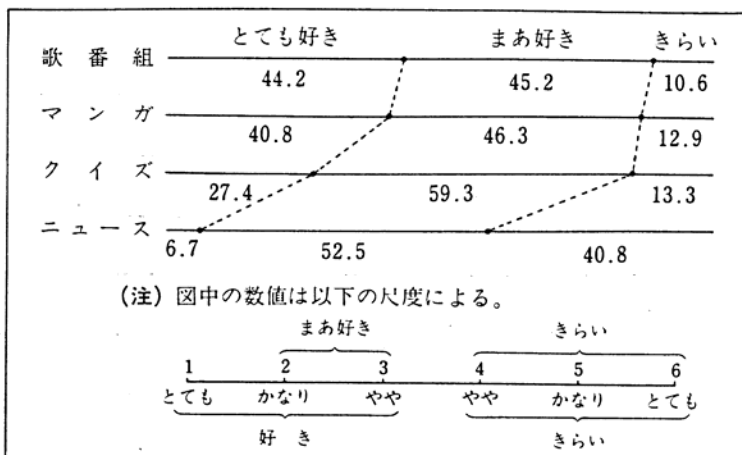


図2 質問票と単純集計

I. まず、あなたのテレビの見方を、おたずねします。

① あなたが好きなのは、どんなテレビ番組ですか。

	とても 好き	かなり 好き	やや 好き	やや きらい	かなり きらい	とても きらい
① 歌番組	44.2	20.5	24.7	5.9	1.8	2.9
② ニュース	6.7	11.0	41.5	25.1	8.0	7.7
③ マンガ	40.8	23.4	22.9	6.9	3.3	2.7
④ クイズ	27.4	28.7	30.6	8.4	2.4	2.5

● 資料 調査票見本および集計表

単位：サンプル数以外はパーセント

I. まず、教育についてのあなたのお考えをおたずねします。

① 次に、①から⑥までにお子さんに身につけてほしいさまざまな力や態度が書いてあります。それらは、学校を通して身につけることができるとお考えになりますか。

	学校を通して			学校を通して	
	十分身につけることができる	ある程度身につけることができる	なんともいえない	あまり身につけることができない	ぜんぜん身につけることができない
① 算数や国語の学力	33.1	62.1	3.8	0.9	0.1
② 基礎的な体力	16.6	67.1	12.3	3.6	0.4
③ 豊かな情操	6.6	54.3	25.9	12.1	1.1
④ 基礎的な生活習慣	5.5	54.3	20.3	18.4	1.5
⑤ やる気やがんばりぬく力	12.1	62.7	17.9	6.4	0.9
⑥ 友だちとつきあう態度	35.6	56.2	6.0	1.9	0.3

② それでは、上と同じ①から⑥までの力は、社会のどこで身につけるのが望ましいとお考えになりますか。

①の学力を、学校で全部つけたほうがよいと思いでしたら、例 a)のように10, 0, 0, 0、また、学校で7割、学習塾で2割、家庭で1割でしたら、例 b)のように7, 1, 2, 0となります。全部で10(割)になるように1~4に数値をお入れください。

	1	2	3	4
	学 校	家 庭	学習塾やおけいこ	地域社会の中で
例 a)	10	0	0	0
例 b)	7	1	2	0
① 算数や国語の学力	8.3	1.1	0.5	0.1
② 基礎的な体力	6.4	2.4	0.3	0.9
③ 豊かな情操	4.5	3.7	0.5	1.3
④ 基礎的な生活習慣	3.7	5.4	0.1	0.8
⑤ やる気やがんばりぬく力	5.4	3.2	0.7	0.7
⑥ 友だちとつきあう態度	6.3	1.9	0.3	1.6

(図中の数値は平均値)

③ 教育についてのあなたのお考えをおたずねします。

次のような意見を、あなたはどのように感じになりますか。

	まったく その通り	かなり その通り	やや その通り	半分 半分	やや 違う	かなり 違う	まったく 違う
① 学業成績の良し(悪し) は予習や復習などの努 力に比例する	24.2	39.8	23.0	9.9	1.6	0.7	0.8
② 小学校時代の学業成績 の良さはいわゆる一流 大学への入学へ通じる	2.0	9.2	16.8	33.8	17.0	11.6	9.6
③ 授業をまじめに聞き、 予習や復習をきちんと していれば望みの学校 へ入れる	8.3	18.9	20.8	24.1	14.4	7.8	5.7

④ あなたは、どれくらいの準備期間があったら、小学校の先生になれると思いますか。
(教員になるには資格の取得が必要ですが、それは考えないでかまいません。)

	いますぐでも	1ヵ月後	3ヵ月後	半年後	1年後	2年後	3~4年後	5年以上	とても無理
	4.9	1.4	1.8	4.2	14.0	11.6	15.8	7.1	39.2

⑤ それでは、半年の準備期間があったら、つけると思う仕事に○をつけてください。
○はひとつもなくとも、また、全部でもかまいません(なお、それぞれの仕事につく
のに資格が必要な場合もありますが、それと無関係にお考えください)。

1. 美容師 26.1	5. 事務職 76.7
2. 医師 1.3	6. 大学教授 2.2
3. 弁護士 1.8	7. 看護婦 15.0
4. スーパーのレジ係 75.1	8. 小学校教師 12.5

⑥ いわゆる一流大学卒業という肩書きの値打ちは、お子さんが大学を出るころ、どうなっ
ていると思いますか。

(いまより) ぐんと値打ち がでる	かなり値打ち がでる	やや値打ち がでる	いまと 変わらない	やや値打ち が下がる	かなり値打ち が下がる	ぜんぜん 値打ちが なくなる
1.3	4.8	3.4	48.4	28.8	11.0	2.3

● 資料 調査票見本および集計表

7 このアンケートを持ってこられたお子さんはどんなお子さんですか。

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------|------|----|------|----|------|-----|------|---|------|---|-----|---|------|-----------|
| | とても | かなり | やや | ふつう | やや | かなり | とても | | | | | | | | |
| ① | スポーツが得意
ですか | 12.6 | — | 18.8 | — | 19.6 | — | 31.1 | — | 9.3 | — | 5.3 | — | 3.3 | (にが手) |
| ② | 勉強が得意です
か | 2.5 | — | 13.3 | — | 21.8 | — | 44.8 | — | 10.5 | — | 4.2 | — | 2.9 | (にが手) |
| ③ | 異性の友だちに
人気があります
か | 2.6 | — | 8.1 | — | 17.8 | — | 60.4 | — | 6.2 | — | 2.1 | — | 2.8 | (人気がない) |
| ④ | クラスのリーダー
ですか | 3.2 | — | 8.7 | — | 18.5 | — | 41.3 | — | 8.2 | — | 7.3 | — | 12.8 | (リーダーでない) |
| ⑤ | やる気があるほう
ですか | 8.3 | — | 17.4 | — | 25.0 | — | 30.7 | — | 12.4 | — | 3.3 | — | 2.9 | (やる気に欠ける) |

8 このアンケートをお持ちになったお子さんと同じ年ごろの時、あなたはどんな子どもでしたか。

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----------------------|------|----|------|----|------|-----|------|---|------|---|-----|---|------|-----------|
| | とても | かなり | やや | ふつう | やや | かなり | とても | | | | | | | | |
| ① | スポーツは得意で
したか | 12.8 | — | 17.8 | — | 15.0 | — | 29.5 | — | 12.9 | — | 7.4 | — | 4.6 | (にが手) |
| ② | 勉強は得意でした
か | 7.9 | — | 19.5 | — | 22.7 | — | 38.5 | — | 6.9 | — | 2.0 | — | 2.5 | (にが手) |
| ③ | 異性の友だちに人
気がありましたか | 5.6 | — | 10.1 | — | 17.1 | — | 56.0 | — | 6.8 | — | 2.8 | — | 1.6 | (人気がない) |
| ④ | クラスのリーダー
でしたか | 7.9 | — | 14.7 | — | 17.5 | — | 35.7 | — | 8.0 | — | 5.5 | — | 10.7 | (リーダーでない) |
| ⑤ | やる気があるほう
でしたか | 8.9 | — | 17.1 | — | 23.0 | — | 37.4 | — | 7.9 | — | 3.2 | — | 2.5 | (やる気に欠ける) |

II. 次に、このアンケートをお持ちになったお子さんのことをお聞きます。

9 このアンケートをお持ちになったお子さんは、あなたが思っていた通り成長して現在を迎えていますか。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---------------------|------------|---------------|---------------|----------------|------|---|------|---|-----|
| | 予想以上に
成長して
れた | やや予想
以上 | ほぼ考えて
いた通り | 期待をやや
裏切った | 期待を大きく
裏切った | | | | | |
| ① | 体力の面で | 17.8 | — | 20.8 | — | 46.1 | — | 13.7 | — | 1.6 |
| ② | 学力の面で | 5.4 | — | 17.2 | — | 53.7 | — | 21.2 | — | 2.5 |
| ③ | 性格の面で | 10.3 | — | 23.6 | — | 52.0 | — | 13.3 | — | 0.8 |

	予想以上に 成長してく れた	やや予想 以上	ほぼ考えて いた通り	期待をやや 裏切った	期待を大きく 裏切った
④ 友だちの数……	14.5	23.1	51.2	10.3	0.9
⑤ やる気の面……	7.3	21.5	44.9	22.9	3.4

10 お子さんの成績は、今のところどれくらいですか。

	(クラスで) トップ	上位	中の上位	中位	中の下位	うしろのほう
① 算数……	4.0	27.4	28.3	27.7	7.9	4.7
② 国語……	3.4	27.2	25.4	31.1	9.0	3.9
③ 社会……	3.1	23.8	27.6	31.9	9.7	3.9
④ 理科……	3.1	23.7	29.9	31.5	8.4	3.4

11 それでは、お子さんが本気になって勉強をがんばったら、どれくらいの成績まで取れるとお考えですか。

	(クラスで) トップ	上位	中の上位	中位	中の下位	うしろのほう
① 算数……	24.6	48.2	21.1	4.8	0.8	0.5
② 国語……	22.7	45.7	25.2	5.5	0.5	0.4
③ 社会……	21.4	46.0	24.7	6.7	0.8	0.4
④ 理科……	23.2	47.4	22.0	6.3	0.7	0.4

12 お子さんは、ふだんの日、次のようなことにどれくらい時間を使っていますか。

- ① テレビを見る……平均して (1) 時間 (42) 分くらい
- ② 家庭での勉強……平均して () 時間 (56) 分くらい

それでは、お母さんとしては、どれくらいの長さが理想的だと思いますか。

- ③ テレビを見る……平均して (1) 時間 (6) 分くらい
- ④ 家庭での勉強……平均して (1) 時間 (20) 分くらい

13 お子さんは、家庭での勉強をがんばっていると思いますか。

がんばっている			がんばっていない		
とても	かなり	やや	やや	あまり	ぜんぜん
1.9	10.2	37.7	19.2	22.0	9.0

14 あなたは、お子さんの勉強をどれくらいまで見てやれるとお思いますか。

	(小学)							
	3年まで	4年まで	5年まで	6年まで	中1まで	中2まで	中3まで	高校まで
① 国語	5.6	8.2	10.2	28.8	10.7	5.5	15.0	16.0
② 算数	8.1	16.0	16.8	28.9	12.1	5.3	8.5	4.3
③ 社会	7.2	10.3	12.8	31.6	11.4	4.3	11.4	11.0
④ 理科	10.3	14.0	15.9	35.2	9.5	3.1	7.7	4.3

15 あなたは、お子さんの勉強相手にどれくらいなっていますか。

	いつも している	だいたい している	週に2- 3日する	週に 1日くらい	めったに しない	ぜんぜん しない
① 学校のテストに目を 通す	37.6	36.4	4.3	8.1	10.9	2.7
② 家庭での勉強の仕方 をチェックする	10.3	26.0	16.0	20.3	21.9	5.5
③ 家庭で勉強を教える	7.1	16.0	16.8	22.0	32.1	6.0

16 次のような方法をとったら、お子さんの成績は良くなるとお考えですか。

	ぐんと よくなる	かなり よくなる	まあ よくなる	変わらない	むしろ 悪くなる
① ドリルや参考書をもった くさん買い与える	0.3	7.4	33.7	55.1	3.5
② 学習塾へ通うか、あるいは 通う回数をふやす	2.4	19.1	46.0	27.2	5.3
③ 家庭教師に来てもらうか、 あるいは回数をふやす	6.0	27.0	42.1	20.5	4.4
④ 学校の授業をもっと熱心に 聞く	23.9	49.1	21.0	5.9	0.1
⑤ 予習をきちんとする	19.9	51.2	23.7	5.1	0.1
⑥ 復習をきちんとする	26.4	53.3	17.7	2.5	0.1

17 それでは、上の①～⑦の中で成績を上げるのに一番効果があると思うのは、どれだと思えますか。記号でおこたえください。

- ① = 0.7 ④ = 7.6 ⑥ = 7.4
 ② = 0.6 ⑤ = 39.9 ⑦ = 40.3
 ③ = 3.5

18 小学生の中で、塾通いをする生徒がふえているといわれています。塾通いがふえる理由は何だと思いですか。

	そう 思う	やや そう思う	半分 半分	ややそう 思わない	そう 思わない
① 学校ではよくわかるまで勉強を教えてくれないから	18.7	24.1	26.3	12.5	18.4
② 親が子どもの実力以上の高望みをした進学を考えるから	37.0	33.9	15.4	7.2	6.5
③ 塾に行かないと勉強をしないから	12.5	33.2	27.8	10.2	16.3
④ よい高校や私立中へ入るためには学校の教育だけでは不十分だと思うから	43.0	33.4	14.4	4.4	4.8
⑤ 他の友だちが通っているの で、そのつき合いの意味も あって	5.8	18.5	23.1	17.6	35.0
⑥ 学校では子どもの個性に合った教え方をしてくれないから	12.7	25.6	25.1	14.2	22.4

19 現在、お子さんは学習塾に通っておられますか。

- ① 通っている……▶ () 年生のころから、週 () 日
37.3
- ② 通っていない……▶ 将来、通わせるつもりは (ない, ある)
62.7

20 学習塾へ通えば、お子さんの成績がぐんとよくなるとお思いですか。

ぐんと 良くなる	かなり 良くなる	やや 良くなる	あまり変わ らないだろ う	ぜんぜん変わ らないだろ う	むしろ悪く なると思う
0.8	16.0	56.1	23.2	2.4	1.5

21 あなたのお子さんの将来について、どんな見通しを持っておいでですか。ばくぜんとしたもので結構ですから、おこたえください。(a)～(d)について、○をつけてください。

(a) 高校について

- 有名校に入れるだろう 6.3
- 有名校ではないが一応のところに入れるだろう 40.7
- まあまあのところに入れるだろう 39.0
- あまり満足のできるところには入れないかもしれない 13.3
- 進学しないだろう 0.7

● 資料 調査票見本および集計表

(b) 大学について、お子さんに入れるかどうかを尋ねました。

1. 一流大学に入れるだろう 5.6
2. 一流ではないがまあ有名な大学に入れるだろう 27.5
3. まあまあの大学に入れるだろう 42.1
4. あまり満足できる大学には入れないかもしれない 15.2
5. 進学しないだろう 9.6

(c) 就職について

仮りにお子さんが企業へ勤めるとしたら、いわゆる一流会社へ勤められると思いますか。

とても 無理	かなり 無理	やや 無理	たぶん 可能	ぜったい 可能
5.0	9.8	41.7	42.8	0.7

(d) お子さんは、どんな人生を送りそうだと思いますか。

- | | ぜったい
なれる | たぶん
なれる | まあ
なれる | まあ
なれない | とても
無理 | ぜったい
無理 |
|----------------------------|-------------|------------|-----------|------------|-----------|------------|
| ① 広い庭のある大きな家
に住む | 3.3 | 10.2 | 36.4 | 38.2 | 10.0 | 1.9 |
| ② 良い父(母)になり、し
あわせな家庭を作る | 14.2 | 39.9 | 44.5 | 0.4 | 0.6 | 0.4 |
| ③ 社会的に尊敬される大
事な仕事につける | 3.8 | 14.9 | 43.9 | 31.2 | 5.1 | 1.1 |
| ④ ふつう程度の暮らしは
できる | 23.1 | 33.8 | 41.8 | 0.7 | 0.3 | 0.3 |
| ⑤ エリートとなり社会的
に活躍する | 1.7 | 7.6 | 36.1 | 41.6 | 9.0 | 4.0 |

III. 最後に、あなたご自身のことをお聞きします。

22) これからいくつか仮定の質問をさせていただきます。

(a) あなたはもう一度生まれ変わることができたら、男に生まれたいですか。それとも女に生まれたいですか (○を1つつけてください)。

1. ぜひ男 17.1
2. できれば男 22.9
3. できれば女 31.2
4. ぜひ女 28.8

(b) もしもあなたのご主人が若い青年として、また、若いあなたの前に現われたとします。
あなたはその青年と結婚してもよいと思えますか (○を1つつけてください)。

- | | |
|-----------------|------|
| 1. ぜひ結婚したい | 23.5 |
| 2. できれば結婚したい | 19.4 |
| 3. まあ結婚してもよい | 33.7 |
| 4. できれば結婚したくない | 16.1 |
| 5. ぜったいに結婚したくない | 7.3 |

23 もし、もう一度人生をやり直すことができたなら、あなたご自身の生き方としてどんな一生を送りたいですか (○を1つつけてください)。

1. 夫と子どもにかこまれて主婦専業で暮らしたい 21.9
2. 家庭で無理なくできる仕事 (ピアノやお花の先生、洋裁の先生など) と家庭とを両立させて暮らしたい 26.9
3. 先生や公務員などフルタイムの仕事と家庭とを両立させて暮らしたい 6.8
4. かなり専門的な職業 (医師とか弁護士、画家、デザイナー、小説家など) をもちながら、家庭と両立させて暮らしたい 33.2
5. 夫と2人 (使用人がいてもよい) で自分たちのお店をやっていききたい 11.2

24 あなたは、次のようなことをどれくらいしていますか。

	いつも している	だいたい している	ときどき している	あまり していない	ぜんぜん していない
① 話題になっている本を読む……	3.9	19.8	49.0	20.2	7.1
② テレビの料理番組で見たヒントを料理にとり入れる	7.0	21.1	51.7	15.0	5.2
③ 教育問題の講演会などに出席する	1.3	6.7	31.5	36.2	24.3
④ 新聞の1～2面に目を通す……	29.4	40.9	23.2	5.6	0.9

25 あなたのご主人を、次の①～③に分けて採点なさってください。

	100点	90点	80点	70点	60点	50点	40～30点	20～10点	0点
① 職業人としては……	32.7	33.9	21.1	6.4	1.9	2.7	0.7	0.3	0.3
② 父親としては……	13.3	24.2	26.1	15.6	5.8	9.4	2.6	2.2	0.8
③ 夫としては……	14.5	24.4	25.4	12.2	5.5	10.3	3.0	3.1	1.6

● 資料 調査票見本および集計表

それでは、あなたご自身を採点なさってください。

	100点	90点	80点	70点	60点	50点	40~30点	20~10点	0点
④ 一人の女性としては	2.4	8.8	29.5	27.3	14.6	13.5	2.8	0.3	0.8
⑤ 母親としては	3.6	12.3	30.1	26.9	12.7	10.2	2.9	0.5	0.8
⑥ 妻としては	3.5	10.8	24.1	23.4	14.7	15.0	4.7	2.2	1.6

26 結婚前後から現在までのあなたのしあわせ度を、年齢をおって7段階でおこたえください。

	とても しあわせ	かなり しあわせ	まあ しあわせ	半分 半分	まあ ふしあわせ	かなり ふしあわせ	とても ふしあわせ
① 結婚する前	20.4	24.5	34.7	16.9	1.9	1.1	0.5
② 結婚直後	23.8	26.4	33.0	12.9	2.3	0.8	0.8
③ 上のお子さんが 生まれたころ	26.9	27.2	31.4	11.2	1.3	1.7	0.3
④ 上のお子さんが 幼稚園のころ	21.1	27.2	35.5	11.8	2.4	1.3	0.7
⑤ 上のお子さんが 小学校へ入ったこ ろ	21.8	24.5	37.7	12.0	2.2	0.9	0.9
⑥ 現 在	20.9	24.5	38.7	11.9	1.6	1.6	0.8

27 それでは、これから先、あなたのしあわせ度は、どうなると思いますか。

	とても しあわせ	かなり しあわせ	まあ しあわせ	半分 半分	まあ ふしあわせ	かなり ふしあわせ	とても ふしあわせ
① これから5年後	14.3	23.8	43.1	16.6	1.0	0.7	0.5
② これから10年後	15.3	25.1	38.9	18.8	0.8	0.3	0.8
③ これから20年後	16.9	21.4	39.3	20.4	1.1	0.1	0.8

28 最後にまたあなたについてうかがいます。母親、あるいは一人の社会人としてのあなたを、ご自分で採点なさってください。同じ年齢くらいの女性の中で、あなたは、

	はるかに ある	かなり ある	ふつう ぐらい	あまり ない	ぜんぜん ない
① 料理のうでまえ	6.3	30.4	53.2	9.3	0.8
② そうじのうでまえ	7.3	27.6	47.9	15.5	1.7
③ 服を作るうでまえ	5.3	14.4	27.6	30.5	22.2

	はるかに ある	かなり ある	ふつう ぐらい	あまり ない	ぜんぜん ない
④ 家計のきりもり……………	7.5	26.4	48.2	15.8	2.1
⑤ お子さんのしつけ……………	4.4	28.8	58.4	7.9	0.5
⑥ お子さんの教育……………	3.3	19.5	66.9	9.5	0.8
⑦ 社会の動きについての知識…	5.5	23.8	56.2	13.0	1.5
⑧ 体力……………	6.0	23.3	47.1	20.1	3.5
⑨ 職業人としてやっていく力…	5.6	25.5	37.5	22.7	8.7
⑩ お金をかせぐ力……………	3.7	15.9	36.4	29.8	14.2

29 今後あなたはどんな生活を送っていくおつもりですか。

1. このまま専業主婦としての生活を送る 39.4
2. 家庭を大事にしながら、パートなどへ出て働きたい 32.9
3. いずれフルタイムの仕事につきたい 12.7
4. このままフルタイムの仕事を続けたい 15.0

30 よろしかったら、あなたの最終学歴をお教えてください。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|------------|
| 1. 中学卒 | 2. 高校卒 | 3. 短大卒 | 4. 大学卒 | 5. その他 () |
| 3.9 | 50.7 | 21.6 | 19.3 | 4.5 |

- 31** (a) 失礼ですが、あなたは現在満何歳におなりですか。満 (37.8) 歳
 (b) 現在のお子さんの数 (2.1)人、いちばん上 (11.6) 歳、いちばん下 (7.7) 歳
 (c) この用紙をお持ち帰りになったお子さんの性別 (男・女) () 年生
 (d) ご主人はあなたより (4.4) 歳年上、又は () 歳年下、又は同年、ご主人がおられない
 (e) あなたのお仕事……1. 主婦 58.7
 2. パートで働いている 16.1
 3. フルタイムで働いている 10.4
 4. 家業 (お店・工場) を手伝っている 9.7
 5. その他 () 5.1

これで終わりです。長いことどうもありがとうございました。